スターツのホテル好調

開業半年、客室稼働率60%に

スターツコーポレーションがカンボジアの首都プノンペンで展開する海外初の自社施工・運営ホテルが好調だ。2018年10月の開業以来、6カ月間で客室稼働率は約60%と想定外に上昇した。シンプルな内装と機能性の高い日本仕様の客室にしたことで、日本のみならずアジア各国からの出張者の需要をつかんだ。今後は増加する観光客の取り込みにも注力し、事業の足場を固めていく考えだ。

チェックインなどで使われる開放感のあるラウンジ＝18日、プノンペン（NNA撮影）

開放感のあるホテル「ホテル エミオン プノンペン」のラウンジ。午後5時前になると、日本からの宿泊客などのチェックインで混み合っていた。スタッフが宿泊客にウェルカムドリンクとおしぼりを手際良く配り、別のスタッフが必要な手続きとホテル設備の説明を簡潔に伝える。わずか数分で作業は完了した。

「宿泊客の増加は想定を上回っているが、この先何が起こるか分からない。気を引き締めていく」。スターツホテル（カンボジア）コーポレーションの八木大・総支配人は、社内の一大プロジェクトが好発進を切ったことは認めつつも襟を正す。

ホテルの敷地面積は約2,380平方メートルで、延べ床面積は2万6,180平方メートル。首都中心部の高級ホテル「ホテルカンボジアーナ」の向かいに立地し、地上19階建て、全240室の4つ星ホテルだ。従業員数は35人で、このうち日本人4人が常駐している。投資額は数十億円に上り、長期での投資回収を目指している。

客室のうち半分が短期滞在者、残る半分が長期滞在者向けだ。18年10月の開業当初、客室稼働率は20%程度だったが、今年3月には60%に上昇。出張者が約9割を占めている。プノンペンのホテルの客室稼働率の平均が50%程度とされる中、人気が出始めている。

意外だった点が、カンボジア人の宿泊が多いこと。準富裕層の家族連れなどが週末を過ごすために宿泊しているという。ホテル宿泊客の比率を見ると、日本人が全体の30%、中国人が14%、韓国人が13%、カンボジア人は5%程度だ。地元住民の宿泊は想定していなかったため、うれしい誤算だった。

全室にバスタブ

宿泊客が増えている背景には複数の要因がある。1つ目が立地の良さ。首都プノンペンにはホテルが集まる地区が存在せず、点在しているのが特徴だ。建設地の選別は難しいが、エミオンからビジネス地区や飲食店が多いボンケンコン地区、観光客が集まる川沿いにアクセスしやすい点が好まれているようだ。

2つ目が出張需要が高いのとは対照的に、適正価格のビジネスホテルが少ないことだ。カンボジアは拠点を設けず、周辺国から出張する企業が少なくない。一方、観光客を狙ったブティックホテルが多く、静かでサービスが行き届いた出張者向けホテルは限られる。

エミオンは1泊100米ドル（約1万1,000円）からと、企業の出張宿泊費の予算を想定した料金設定にしている。ブティックホテルに比べると料金は割高だが、サービスの質は高いといえる。

3つ目がシンプルな内装に仕上げた客室。カンボジアで好まれる派手な色使いなどは一際せず、白色や茶色を基調にした落ち着いた空間にした。全室にバスタブや簡易キッチンがついているなど機能面にもこだわっている。

4つ目がセキュリティーだ。在カンボジア日本大使館などに安全基準について協力を仰いだ。マスターベッドの扉には鍵やのぞき穴を付けた。長期滞在者が一人でも安心して滞在できるよう施工した。

シンプルな色使いで落ち着いた空間に仕上げた客室＝18日、プノンペン（NNA撮影）

エミオンは開業後、想定を上回るビジネス需要をつかんだ。今後は観光客の需要も開拓したい考えだ。八木総支配人は、3年後に観光客の比率を40%に引き上げ、商用客を50%にすることを目指している。残る10%は団体客を見込む。

カンボジア観光省によると、18年の外国人観光客は前年比10.7%増の620万人。19年は660万人を見込んでいる。高い経済成長が続く中、拡大するビジネス客と増加傾向にある観光客の需要を囲い込み、事業を軌道に乗せていく考えだ。

（竹内悠）

Copyright(C) NNA All rights reserved. 記事の無断転載・複製・転送を禁じます